

#NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.21

発行者 沼津国際交流協会
(企画広報部会)

所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所国際交流室内
☎0559-34-2529



WALKING IN KALAMAZOO

7月21日～27日、市民訪問団10名が姉妹都市・カラマズー市を訪問しました。
一行はホームステイをしながら多くのカラマズー市民と交流し、親善を深めました。

素晴らしき思い出の数々

市民団員・カラマズー訪問記

姉妹都市提携34年目の今年は、沼津市民訪問団員10名（高橋悠子団長）がカラマズー市を訪問。貴重な体験を心ゆくまで味わいました。

行程

7/19＝出発，20～21＝シカゴ，21～27＝カラマズー（ホームステイ、市内観光、市民交流など），27～28＝シアトル，29＝帰国

高橋悠子さん（団長）

シカゴからバスで3時間。途中、パトカーに先導されて到着。笑顔で出迎えてくれたカラマズーの協会の皆さん、そしてホストファミリーのあたたかいおもてなしは、34年の歴史の中で育まれた交流の深さを強く感じました。友達との再会、新しい出会い、ポットラックパーティー、見学…。1996年の夏、メンバー一同がカラマズーで得た様々な体験は、生涯を通じてきつと特別な思い出として残ることでしょう。

I love KALAMAZOO ♡



渡辺俊次さん（副団長）

私のホームステイ先はウディーさんとナンシーさん宅。結婚して30年以上経過していても常に2人で何かをやるとうする仲の良さは、新婚家庭のようでした。台所では私も加わらせてもらい3人で料理を楽しみました。また私の仕事に関連した研究施設にご案内いただいたり、モーターボートをミシガン湖で運転させていただいたり…。とても有意義な一週間でした。



富山 操さん〔右から2人目〕

美術館や大学の訪問、ミシガン湖をはじめとした自然の満喫、そしてホストファミリーや市民とのいろいろな交流…様々な面でアメリカを垣間見たような気がします。出発前は言葉の壁や習慣の違い等で緊張していた私でしたが、カラマズーの人々のもてなしで心は和らぎ、元気に過ごすことができました。何か今までの私よりひとまわり大きくなったと感じています。



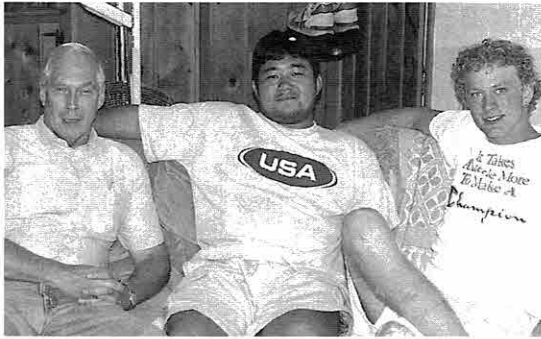
平尾笙子さん

戦後7～8年の頃にみたアメリカ映画には、日本にない生活・物資の豊かさがありました。その時12歳の私は、骨つき肉を食べにアメリカに行きたいと切望しました。そしてついにアメリカにやって来ました。感無量で涙が出て仕方ありませんでした。ホストファミリーのルースさんに話すと、最後の夜に「あなたのドリームよ」と骨つき肉を焼いてくれました。何とも言えない気持ちでした。アメリカの大きさや自然、生活等を体感し、望みはかなえられました。



山内圭一さん

極度の緊張で気を失わないよう握手を交わし、英会話とはいえない会話でホームステイが始まった。しかし、ポールの家での一週間はあっという間だった。心からありがとうと言いたい。私は初めて無口で静かなアメリカを感じた。私の中のアメリカが、また少し大きくなった。



斉藤千恵美さん〔左側〕

初めての海外旅行でしたが、カラマズーに着いた時、それまでの心配は杞憂でした。誰もが親しげで、ずっと前から知っていたような不思議な気持ちにさせられました。残念なことは自分の気持ちを言葉にできなかったことで、もっと英語を勉強しなければと思いました。



山田久美子さん〔右側〕

私にとっては初めての海外旅行。見るものすべてが驚きで、大変に興味深いものでした。異文化を体験して、日本人として日本のことをもっと知ろうとしなければと痛感しました。今後の自分の生き方を考えるには大変良い機会に恵まれたのではないかと思います。



土屋裕美さん

ホームステイ先は“大草原の小さな家”を思い出させるような山の中の家でした。ママは盲学校の先生で、昨年ご主人を亡くされましたが力強く生きていました。私たちの訪問をいろいろな人達が様々な形で携わってくれたことは、本当に嬉しかったし、ありがたかったです。



溝口和子さん〔後列左〕

有名なカラマズーの歌があることを訪問の3カ月前に知り、実際にカラマズーに行って教会でその歌を初めて聞きました。カラマズーの町は、その歌と同じに明るく美しいものでした。Yes, There really is a Kalamazoo. カラマズーは本当にあります。とても良いところです。



服部吟子さん〔右から4人目〕

カラマズー市へ向かう途中でパトカーがサイレンを鳴らして誘導してくれた時は本当に嬉しく、これは生涯忘れません。慣れてきた頃にホストファミリーと別れなくてはならず、お世話していただいた方々には感謝の言葉も浮かばなかったほど…。夢のようなホームステイでした。



活 動 ア ・ ラ ・ カ ル ト

「Domo Arigato Gozaimashita」

昨年の9月から沼津市内の中学校で教鞭をとっていたカラマズー市（姉妹都市・米国）からの英語教師ゲイル・ラガーさんが、7月19日に任務を終え、8月1日に帰国しました。

NICEでは、帰国前の7月15日に夫のマットさんも交えて送別会を開き、その席上でゲイルさんが日本で過ごした感想を次のように語ってくれました。

I'm completely amazed that this year is almost over. It has gone so fast — too fast. In this short time, though, I have learned so much about Japanese school life, culture, and daily life. I've even learned to speak a little Japanese.

I really learned a lot about myself, too. This experience will always be a part of me now and has changed the way I view my life and the world. I will miss many things in Japan: the food, mountains, the sea, onsen, tatami, kotatsu, etc. But, most of all will miss the people whom we've gotten to know and my students.

I'm excited to share what I've learned with my students in America so that they will have a better understanding of the world around them.

I want to thank all of you for your kindness and help this year. You made us feel very comfortable in Numazu.

Gail Lager



今年も入賞！ 燦々ぬまづ踊り

7月19日、在住外国人との交流行事の一環として「沼津市民総参加踊り・燦々ぬまづ踊り」にNICE チームが出場しました。



4回目の今年は、外国人16人、日本人28人の計44人が参加。アメリカ、カナダ、オーストラリア、インドネシア、タイ、イラン、マレーシア、ベトナムの外国人とともに一般市民も加わり、大会前には4回の練習も行いました。

踊り当日はNICEの衣装を身にまとい、練習の成果を存分に発揮。優秀賞は惜しくも逃しましたが、2年連続の特別賞を受賞しました。



練習風景

「踊りに参加して」

カイリー・クミンズさん
（オーストラリア）

初めて参加しましたが、大会の運営がきちんと組織化されていて、みんなが協力しあっている素晴らしい行事だと感じました。

NICE チームのメンバーはとってもフレンドリーで、練習でも親切・丁寧に教えてくれ、新しい友達もできました。踊りは本当に楽しく、気持ちよかったです。また出場しましょう！



TEA TIME



帰国報告

「留学体験で感じたこと」

平成7年度カラマズー市派遣留学生・矢部都子さん



昨年の8月から今年の6月までの約10カ月間、私はカラマズーでの留学を体験してきました。

あまりの内容の濃さに、何を、更に明確かつ簡潔に書いたら良いのか分かりませんが、ここでは本当に私の強く感じたこと2つを書いてみようと思います。

10カ月間の留学を終えてみて、自分自身以前と比べて“一番変わったな”と思うのは、自分に自信が持てるようになったことです。これはおそらく、アメリカでの生活で気づかぬうちに養われた積極性、自主性、“Up to you”の精神から生まれたのではないかと思います。滞在期間中、様々な場面で、“It’s up to you.”と言われたことが何度あったことでしょうか。一時は自意識の低さや自主性の乏しさに対し自分に腹が立ち、情けなくなることもありましたが、しかし、その私の中の大きな壁を乗り越えた今、私は何か大きな自信を得られたような気がします。また、別の言い方をすれば、昔から持ち続けていたプライドという厚い殻を破り捨て、他人は他人、自分は自分、という周りに捕らわれない自分がいつの間にか形成されていた、という感じもします。心にゆとりが生まれたと言ってもいいのかもしれません。



第2に挙げる私の強く感じたことというのは、この留学に語学の上達以上の様々な経験を期待していた私にとって、とても新鮮な喜びであると同時に、少しの驚きでもありました。それは出会いのチャンスを逃さない、ということです。私はこの10カ月間で、予想していた以上の数多

くの友だち、知人を作りました。その中の何人かとは、一生を通じて付き合っていける程の関係を築き上げることも出来ました。私は、別に必死になって友だちを作ろうとしていたわけではありません。私はただ、出会いのチャンスを逃さなかったのだと思います。生まれ育ったこの地を離れたことがなく、今まで努力しなくてもいつでも周りに友だちが居たという私にとって誰も知らない学校での生活は本当に辛いものでした。そこで私の始めたことは、色々な人と出会い、知り合うために、自分の思ったことすべてに挑戦してみる、ということでした。テニス、ミュージカル、ボランティア活動、ダンスパーティーなど、自分で興味を持った物すべてに挑戦しました。それこそ本当に、勉強、スポーツから遊びまで私にとっては何もかもが挑戦でした。その結果、私は人とのつながりや出会いの大切さを知るようになりました。



何も分からぬ未踏の地で、自分のスペースを見つけることは、そんなに甘いことではありませんでしたが、何事にも挑戦し、常に前進していこうと努力した中で、またその後で、自分自身の中に見つけたものは、とても大きなものでした。それは、とても一言では語り尽くせないものであり、私の中で何物にも代え難い価値を持つものでした。

最後に、この短い10カ月の間に、私はカラマズーや、そこで出会った人々が大好きになりました。今すぐにも行きたいというのが本音ですが、機会を見つけて是非また訪れたいです。

岳陽だより②

友好都市・岳陽市（中国）在住

日本語教師・飯塚信子（NICE 会員）

さて、今回は中国の庶民の生活の中で私が驚いたことを紹介しましょう。

まず、日本人が中国を訪れて一番最初にびっくりするのは交通事情でしょう。基本的に信号はほとんどありません。信号や交通法規があっても、みんな守っていません。車がセンターラインをはみ出して走ることなどあたりまえ。歩道に乗り上げて走ることも日常茶飯事。私は未だに大きい交差点を一人で横断することができません。どこから車が突っ込んでくるか予想できないからです。

庶民の足はバスと自転車です。このバスが日本では考えられないほど汚いのです。バスの中ではリンゴの皮をむいて食べている人、ヒマワリの種のようなものを食べている人、タバコを吸っている人といろいろで、食べかすや吸殻をあたり構わず捨てています。慣れるのに随分時間がかかりました。また、バスの乗車も“動いているバスに飛び乗る”と言った方が正しいかもしれません。もちろん時刻表はなく、乗客が何人か乗ったら発車するという具合です。

ところで、タクシーの運転手は中国ではとてもいい職業だそうで、理由は高給取りだからです。教師の社会的評価はかなり低く、給料もタクシーの運転手とは比べものにならないほど少ないのが現状です。中国が先進諸国と肩を並べるためには教育が一番大切だと思うのですが…でも現実はお金がすべてなのです。

社会主義（共産主義）国家でありながら貧富の差が資本主義国家以上に大きいにもびっくりしました。ここ岳陽市でも失業中の人がたくさん

います。主要道路の沿道では靴みがきをしている人がたくさんいます。1回1元（13円）です。また、ちゃちなゲームや中国将棋を商売にしている人もいます。

お金のある人は、表面的には私たち日本人と変わらない生活をしています。数年前までは、お金があっても物がなかったようですが、今ではお金さえあれば何でも手に入ります。国の解放政策と今までの共産主義の狭間で苦しんでいるのは、結局一般の市民のような気がします。

話は変わりますが、先日、湖南省の省都・長沙市に行ってきました。お墓参りに連れていってもらったのですが、中国ではお墓参りをする人はあまり多くないとのこと。墓石はお金を出せば建ててもらえるようですが、その墓地も将来の保証はないとのこと。私はアメリカ、日本、そして中国の3カ国でお墓参りを経験しましたが、やはり日本人の祖先の祀り方が一番いいと思います。



学校は、約2か月の夏休みに入っていて、私は旅行を楽しもうと思っています。まずは念願のチベットへ行き、その後は昆明に行きます。次回は旅行報告記になると思います…。

話題

NICE の情報をインターネットで発信開始

NICE では、協会情報を広く発信する方法として、広範な情報コミュニケーションメディア・インターネットの活用を検討してきましたが、このたび、沼津情報専門学校（寿町）の協力を得て、インターネット上に NICE のホームページを開設しました。

当面は日本語のみの掲載ですが、NICE の紹介をはじめ、行事開催や募集などのお知らせを中心に情報を発信していきます。NICE のホームページ・アドレスは、<http://www2.shizuokanet.or.jp/usr/numasen/kokusai.htm> です。



タイ青年、まもなく来沼

—— アセアン青年受入れ事業 ——

アセアン諸国青年の来沼として、今年は昨年
に引き続きタイ国の青年を迎え入れます。

今年は、農業分野の青年25人（男16人、女9
人）で、農業関係の公務員や団体職員、農民、
大学生などで構成されています。

農業分野については、平成5・6年度のイン
ドネシア青年に継ぐもので、農業システムの講
義をはじめ、農家での稲刈り体験、花卉園や青
果市場での視察などの研修とともに、ホームス
テイなどを通じて市民との交流が図れるよう企
画しています。

10日間の沼津滞在が、お互いに有意義なもの
になり、信頼と友好の絆が生まれ、深まること
をねらいとしています。



昨年の研修風景

◇タイ青年の主なスケジュール◇

- 9月28日(土) 沼津着／歓迎会
- 29日(日) 市街地散策／国際交流イベ
ント参加
- 30日(月) 沼津市長・JA南駿表敬訪問／
沼津の農業についての講義等
- 10月1日(火) 農業視察および体験（水稻、
花卉、みかん）等
- 2日(水) 食品（パン）工場視察／農業
視察（露地野菜）／日本人農業
青年との意見交換
- 3日(木) 自主研修
- 4日(金) 農業視察（青果市場、朝市）／
ホストファミリー対面式
- 5日(土) ホームステイ
- 6日(日) ホームステイ終了／歓送会
- 7日(月) 離沼

期待される青年とのふれあい

タイ青年の受入れが初めてだった昨年、NICE
では受入れスタッフやホストファミリーからタ
イ青年と交流した感想を聞きました。ここでは
その一部を紹介しますが、今年もタイ青年との
素晴らしいふれあいが期待されます。

○スタッフの声

- ・とても気さく、また、礼儀正しい
- ・感情が日本人に似ていて、親しみやすい
- ・純粹、真面目、熱心、明朗
- ・一所懸命で積極的、そして協力的

○ホストファミリーの声

- ・家庭にすぐにとけこみ、親しみやすかった
- ・他の国の青年と比べてお世話しやすかった
- ・タイ料理にハマってしまった

国際交流イベント・NICE 街'96 MINNA DE ASOBO / LET'S HAVE FUN

タイ青年も交え、多くの市民の皆さんに参加
していただいて交流イベントを開催します。

いろいろな国の人たちと親睦を深めましょう。
友達や知り合いの方をお誘いのうえ、是非ご参
加ください。

■と き 9月29日(日)、午後1時～4時

■と ころ ピアオオトミ（下香貫島郷）

■内 容 ・各種ゲーム、踊り
・もちつき等の食文化体験 など

■参 加 料 無料

■定 員 200人

■申し込み NICE 事務局 ☎34-2529



昨年の様子

国際交流なんでも情報室

出場者募集

英語&日本語スピーチコンテスト

日ごろ感じていること、思っていることを日本人は英語で、外国人は日本語で自由に発表してみませんか！

- と き 11月17日(日)、午後2時～4時
- と ころ 沼津市立図書館 視聴覚ホール
- 資 格 満18歳以上の人
- 定 員 英語・日本語の部 各10人(先着順)
- 題 目 自由(5分以内)
- 賞 各部とも1位～3位を入賞とし、賞状、トロフィー、副賞を贈呈
- 申し込み・問い合わせ NICE 事務局 ☎34-2529

外国人青年から学ぶ

国際理解講演会

いろいろな国へ旅行したいけれど時間がないという方のために、県内在住の外国人留学生から母国の紹介、またツアーコンダクターから珍しい体験などを聞く機会を3回シリーズで用意しました。

ガイドブックには載っていない、とっておきの話を聞いてみませんか。

☎第1回目はトルコと中国です。

- と き 10月18日(金)、午後6時30分～8時
11月19日(火)、午後6時30分～8時
12月8日(日)、午後2時～3時30分
- と ころ 沼津市立図書館 視聴覚ホール
- 講 師 (第1回目)
ハサン・ウチプリテさん(トルコ)
東海大学海洋学部研究生
向 文英さん(中国)
日本大学留学生
*第2・3回目は現在、交渉中です
- 内 容 母国の文化紹介など(各45分ずつ)
- 定 員 各200人(先着順)
- 申し込み・問い合わせ NICE 事務局 ☎34-2529

募 集

「青少年の考える国際化」作文・論文

静岡県教育委員会では、国際化について感じていることや21世紀に向けての日本のあるべき姿等についての作文・論文を募集しています。

- テ ー マ 身近な国際化や世界の中の日本などをテーマとし、題材は自由
- 応募資格 県内の概ね30歳以下の青年(外国青年を含む)および高校生
- 応募数 1人1点
- 応募原稿 ・400字詰め原稿用紙4枚程度
・言語は自由 ほか
- 募集期限 9月30日(月)
- 作品審査 優秀賞と奨励賞を各10点選出し、賞状と記念品を贈呈
- 問い合わせ 静岡県教育委員会青少年課
☎054-221-3312

*募集要項の資料はNICE事務局にもあります。

募 集

青年海外協力隊員

「青年海外協力隊」は、自分の持っている技術や経験を活かして、アジアやアフリカ、中南米、東欧諸国などの国造りに協力する青年の海外ボランティア活動で、これを実施する国際協力事業団では本年度秋期の隊員を募集します。

- 募集資格 20歳～39歳までの日本国籍を持つ心身ともに健康な青年男女
- 募集期間 10月15日(火)～11月30日(土)
- 応募方法 所定願書を協力隊事務局に提出
- 募集規模 約160種、約800人、派遣予定国は約60カ国
- 派遣期間 原則として2年間
- *募集に関する説明会(県東部地区)が11月1日(金)、午後6時30分から三島商工会議所(三島市一番町2-29)で開催されます。
- 問い合わせ 国際協力事業団関東支部 ☎048-834-3066、または静岡県国際課
☎054-221-3066